7　審査結果の意見・講評

我が国の経済は、5%を上回る賃上げ率が続くなど、近年にはない明るい動きが続いており、足元の景気は緩やかに回復している。一方で、個人消費については、身近な品目の物価上昇が続く中で、賃金、所得に比べて回復力が弱いものにとどまっている。また、現在の景気回復は、戦後３番目の長さに達し、成熟化した状態にあることを踏まえると、何らかの負のショックを機に景気の局面が変化する可能性には十分警戒が必要な状況である。

このような中、本市においては、「安全・安心な暮らしの実現」、「少子化・人口減少への対応」、「地域社会経済の活性化」、「デジタル化・ＤＸの推進」を重点テーマに、「安心・安全で活力にあふれた、誰もが活き活き生活・活躍できる共生のまち」の実現に向け取組を進めた。基金については、主要４基金の取崩しは実施せず、本年度末の一般会計と特別会計を合わせた基金残高は、前年度より約 14 億 4,200 万円増加し、約 339 億 2,700 万円となった。また、市債の残高も、本年度は臨時財政対策債の借入れが生じなかったため、地方債の借入額が減少し、本年度末の一般会計と特別会計を合わせた未償還元金は、前年度より約 61 億 800 万円減少し、８年連続減の約 1,183 億 4,600 万円となった。

(1)　一般会計について

本年度における一般会計の決算規模については、歳入が前年度より約 67 億 3,800 万円（4.4%）増加し約 1,584 億 5,100 万円となり、歳出も前年度より約 64 億 7,700 万円（4.3%）増加し約 1,569 億 1,000 万円となった。歳入と歳出の差額である形式収支は、約 15 億 4,100 万円のプラスとなった。形式収支から翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支は、前年度より約 4,500 万円（4.4%）増加し、約 10 億 5,600 万円のプラスとなった。

地方公共団体の財政の弾力性を判断する指標である経常収支比率は、主に地方税や地方交付税の増加により、前年度に比べ 0.8 ポイント低下し、94.0%と２年連続改善した。一方、地方公共団体の財政力を示す指数である財政力指数については、0.63 と前年度より 0.01 ポイント低下（悪化）している。本年度の単年度のみの財政力指数は 0.62 で、過去最低であった 0.61 に近づいており、財政状況は厳しくなっている。

今後、人口減少による事業所税の課税団体の指定取消や地方交付税の減など歳入への多大なるマイナス影響が見込まれる一方で、物価高騰や賃金、金利の上昇により、事業費や義務的経費の増嵩要因が急速に高まっており、財政運営を圧迫する懸念がある。安定的かつ持続可能な財政運営のために、デジタル化・ＤＸの推進や公共施設の削減など、行政運営の更なる効率化や経営的視点に立った行財政改革の推進に努められたい。

(2) 特別会計について

本年度における１０特別会計の決算規模については、歳入が前年度より約 35 億 6,100 万円（3.4%）増加し約 1,095 億円となり、歳出も前年度より約 36 億 1,100 万円（3.5%）増加し約 1,081 億円となった。特別会計は、特定の歳入を特定の歳出に充当するもので、基本的に独立採算制である。本年度、競輪事業特別会計においては、引き続きインターネット投票が好調なこともあり、事業収入がさらに増加し、一般会計に 6 億円（前年度 5 億円）の繰出しを行うなど市の財政に貢献している。各会計においては、今後も、社会経済情勢の変化等を見据えた適切な対応に努め、事業収入の増収に取り組むなど、安定した運営に努められたい。

(3) 事務処理の誤りについて

決算書及び決算附属書類は、おおむね適正に作成されていたが、一部に修正を要するものがあった。

本年度も、前年度同様に、歳入の所属年度を誤っているものや使用料等の算定を誤っているものがあった。歳入事務に対する職員の理解不足に起因するものであり、職員研修を強化するなど、職員の理解を深める取組を推進し、再発防止に努めるよう前年度求めたところであるが、改善されていない状況であり、内部統制が働いていないと思われる。

また、決算附属書類の財産に関する調書においては、公有財産引継書や異動報告書の提出漏れ等により内容に誤りがあり修正を求めたところである。これらは、財産の管理に係る手続等に対する職員の理解不足が原因と考えられる。

決算書及び決算附属書類は、年間の財政、財産状況を示すものであり、調製後は議会の認定に付され、その後は市民に対して公表されるという、極めて重要かつ信頼性が求められる書類である。

組織として事務の適正さを確保するため、関係法規等の理解を深める取組や確認体制の構築など、実効性のある取組を推進し、内部統制の強化に努められたい。